

熱い思いを「つなぐ」 ～区一斉授業研究会紹介（前編）～

中区・西区 西前小学校

1年「あきとあそぼう」江口美帆先生
5年「日本の米を守りたい～CMをつくろう～」梅本佑季先生
6年「ブラインドサッカーから助け合う社会を」五味毅先生

1年生の授業では、繰り返し材とかがおる中で、自分たち自身が存分に「秋」を楽しみ、その上で、地域の幼児に伝えたい楽しさを、それぞれの体験したことを通して探っていくことができていました。

5年生の授業は、実際にお米を食べる経験、アンケートの集計、地域の米店へのインタビュー、米の良さを調べる活動など、多様な活動を行っていました。それをよりどころに、自分たちがCMで伝えたいことを見つめることができていました。

6年生の授業は、ブラインドサッカーをやっている目の不自由な方からいただいた手紙をもとに、いろいろと考えていく内容でした。子どもたちの言葉から、障がいのある身近な人たちへの見方が変容している様子が見てとれました。ブラインドサッカーを通して、体験から学ぶことが子どもたちの価値の変容につながっていることが分かる単元でした。

どの授業も本物と出会い、そこから学んだことを考える子どもたちの姿がとても素晴らしいと思いました。

旭区 さちが丘小学校

1年「あきといっしょにいっぱいあそぼう」山口歌鈴先生
3年「未来へつなげ！サニーカブト」中村優希先生
6年「未来へつなげ！さちアート！」酒井綾葉先生



1年生では自然豊かな地域性を生かし、どんぐりや木の葉など様々な「秋らしいもの」を用いて遊び道具を作っていました。どの子も生き生きと活動に取り組む姿が見られ、そのために場の設定など手だてを講じた授業者の努力は素晴らしいものでした。

創立50周年ということもあり、総合では「未来へつなぐ！」がテーマとなりました。3年生はカブトムシを通して環境を、6年生では写真を通してまちのよさをどのようにつないでいくかを考えていく活動に取り組まれました。

本時では両クラスとも子どもたち一人ひとりが思いを語り合い、気づきを共有し、これからのことについて本気になる姿が見られました。

3年生では大切に育ててきたカブトムシを今後どうするか、それぞれの立場から根拠をもとに考えを述べ合いました。熱い思いが伝わる話し合いでした。

一方、6年生では、自分たちが取り組んできた写真について「このままでいいのだろうか？」と活動の目的に立ち返り、改めて本気で取り組んでいこうと議論を繰り広げる姿が見られました。

瀬谷区 相沢小学校

2年「あそんでためてくふうして～エコおもちゃにへんしん！～」遠藤泰樹先生
5年「みんなで遊んで仲良くなろう」片山浩太先生

2年生の実践では、身近な廃材の特徴をよくとらえ、ゴム・磁石・風・転がすなどの動く仕組みを工夫して遊ぶ様子が見られました。友達と楽しく遊びながらも、自然に「こうするともっと飛ぶよ」「こうしたらおもしろくなるよ」などの会話が飛び交う子どもの姿が見られました。

教室ではなく、木の作りのホールで行ったことや、子どもたちのよいところを価値付けながら声をかけたり問い返したりする授業者の姿など、温かい雰囲気の中で、子どもたちもこのびと活動することができた授業でした。

5年生は幼保小交流と関連させた単元で授業を行いました。総合の単元としてどのような探究課題にしていっていいかということも区研でも随分悩みました。最終的には保育士という仕事から学ぶキャリアの視点で単元を組みました。

本時では、子どもたちは保育士から仕事に対する思いや子どもとの接し方などを丁寧に学び、それを交流に生かそうとする姿が見られました。また、ペアを組んでより具体的に園児を想定して交流計画を立てることで、一人ひとりが真剣に自分事として取り組もうとすることができました。

緑区 森の台小学校

2年「2525おもちゃランド～あそんでためてくふうして～」金原暢子先生
4年「フだんのくらしにシあわせ隊」小原尚寛先生
6年「WELCOME TO NAKAYAMA」山手俊明先生

2年生では材料・用具・活動場所など配置を十分に考えていたので、子どもたちが主体的に追究していました。

おもちゃを作る前に、集めた材料でどんな遊びができるか考え、材料の特性を生かした遊びをしていたので、子どもが遊びのイメージを広げていました。

4年生は福祉に関する単元で、地域のケアプラザとの2回目の交流を考える授業でした。映像や短冊を使うことで、話し合いが活発になりました。

6年生はキャリアや地域の魅力を扱う単元でした。子どもたちが自分達の町の魅力を探そうとする姿が見られました。見つけた魅力をチームごとに主体的に考えることができました。



青葉区 つつじが丘小学校

1年「あきとあそぼう」桑野聖子先生
4年「KKP(公園きらめきプロジェクト～地域の人に感謝をつたえよう～)伊藤千恵美先生
6年「ニュースポーツでTTZ(つくる つながる 全員で)」林慎一郎先生

「あきとあそぼう」では、子どもたちがこだわりをもって遊びを作り出す姿にとてワクワクしました。

振り返りのワークシートは、指導案検討で他の学校の方から提案されたもので、子どもが自分の成長を感じられるように工夫されたものでした。

4年生は公園をきれいにする活動について地域の方からアドバイスをいただき、ピラミッドチャートを使いながら、その方法を決めようという授業でした。各グループで、相手の立場に立って理由を伝え合う姿が印象に残りました。

「地域と関わり、よりよくなっていこう」という6年生の単元は、活発な子どもたちのよさを生かし、他者と触れ合うことで、相手のことを思いやる心情をそだてたいという先生の思いからスタートしたそうです。担任の確かな見取りが、子どもを輝かせる実感した授業でした。



都筑区 つづきの丘小学校

1年「みんなの にこにこ だいさくせん」篠田優介先生
6年「つづきの丘の道しるべプロジェクト」下山裕児先生

「にこにこ だいさくせん」は、家族が「にこにこ」になるためにはどうすればいいかを考え、実践する単元です。本時は2回目の「だいさくせん」で1週間続けたお手伝いの報告会として、全体で作戦の感想や家の人の感想を伝え合いました。自分や家族の心情に視点を向けて話し合うことができました。その中で、実践する自分に対する家族への思いに気づくことが多い授業でした。

6年生では、開校20周年記念番組の制作に向けて、取材で得た情報をもとに、自分たちの作る番組にふさわしい画像や映像を選び、番組構成を考える授業でした。ICT機器の活用や付箋を使った学習活動で視覚的にわかりやすく授業を行い、児童たちが付箋をグループ分けして考えをまとめていく姿が見られました。



戸塚区 川上小学校

1年「みんなの にこにこ 大きくせん」渡辺彩先生
4年「いけ！たんけん隊！」黒川千恵先生



1年生の「みんなの にこにこ 大きくせん」では、家族の「にこにこ」を増やすために、子どもたちがいろいろな作戦を考え、実践しました。

「にこにこ」を増やすためにそれぞれが取り組んだことを伝え合うことで、友達の間で作戦を知ることができ、「もっと！にこにこ大きくせん」に向けた意欲を高めていました。また、作戦を仲間分けし整理することで、友達の間で取組と自分の取組を比較して考え、次の作戦を決めていました。

4年生の「いけ！たんけん隊！」では、学校の近くにある名瀬川や里山に行き、たくさんの生き物とかがおることで、気づいたことや考えたことをもとに、学校にある池の整備に取り組まれました。

池の完成に向けて、全校のみんなに何を伝えていくとよいのか、これまでの活動をもとに真剣に考えている姿が見られました。



金沢区 西金沢学園

1年「My ねんちょうさんとあそびたい」井上真友子先生
3年「おうえんしよう！みんなの金沢動物園」浅沼優希先生
6年「もっと知りたい 伝えたい 創っていこう わたしたちの輝く西金沢学園」藤本伸弥先生

西金沢学園は金沢区西小学校と西金沢中学校を前身とし、小中一貫校として2017年に開校しました。近隣には金沢動物園や幼稚園があり、身近な材に恵まれています。

1年生は「年長さんとの交流」、3年生は「金沢動物園」、6年生は「西金沢学園の特色や歴史」を材に単元が展開されていました。どれも学校ならではの特色ある材で、子どもたちが材の魅力を感じ、活動への思いを高めていました。

本時では、1年生は年長さんという相手意識をもち、遊びを通して、さらに仲を深める活動を行いました。

3年生は、思考ツールを使い意見をまとめることで考えを整理していました。

6年生は、西金沢学園になって2年がたち、6年生が感じている西金沢学園のよさや特色を4・5年生に伝えるリーフレット作りに取り組まれました。

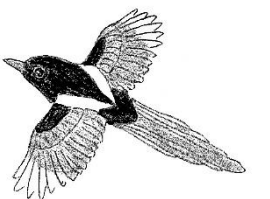
連携だより Pica Pica 第4号 予告

第3号に続き、市・区一斉授業研究会の取り組みを紹介します。授業者の先生方がそれぞれの地域の特色を生かしながら、子どもたちが本気で、楽しく学べるような授業づくりに取り組んでいる様子を伝えたいと思っています。材の選択や手立てなどが、これからの単元づくりのヒントになれば幸いです。

○熱い思いを「つなぐ」 ～区一斉授業研究会紹介（後編）～

鶴見区・神奈川区・南区・港南区・保土ヶ谷区・磯子区・港北区
栄区・泉区

○横浜市一斉授業研究会 左近山小学校（旭区）



横浜市一斉授業研究会 生活科・総合的な学習の時間 三保小学校（緑区）

三保小学校では、地域の豊かな自然を活用し、平成24年度よりESD（持続可能な開発のための教育）のカリキュラム開発と授業実践を進めてきました。特に環境・キャリア・健康・安全・福祉・食・国際理解など現代的な諸課題をクロスカリキュラムにより整理してきました。また、2015年9月に採択された国連が定めた新たな目標「持続可能な開発目標」（SDGs）の視点も踏まえて、カリキュラムデザインに取り組んでいます。今回の研究会では、今後私たちが考えるべき視点を授業を通して学ばせていただき、新たな視点をもつことができました。

1年「いろいろなにこにこ あつめてふやそう！」中原千秋先生

「朝ごはんの時、何もしてないのにママが笑ってた」と、何もしてないのににこにこするという不思議さをみんなで味わう1時間になっていました。手元にあるカードを離れ、にこにこする場面を思い出しながら話をする子どもたち。「実は一緒に生活しているだけでも、お家の人がにこにこになっている」という気づきは、ESDの視点（生きて働く知識）【つながりを尊重する態度】につながる「これまで意識していなかった家族と自分のかかわりに気づく」ことの具体例なので、とても大事なところに触れた1時間だったと思いました。（授業リーダー 前園兼作先生）

2年「竹とあそぼう」海藤史隆先生

竹という材は魅力的だな、と改めて感じました。竹の音、触り心地、匂いなど、触れ合うことが心地よい材でした。そのため、児童は用意されたビー玉やスーパーボールを使うのは最低限で、竹を中心に遊ぶことができていたのだと思います。

活動中、海藤先生が児童にかける声かけには、児童の興味・関心を高めるものがたくさんありました。例えば、竹にスーパーボールを入れて音を出しているグループの所で、「びっくりする音が鳴るね」と声をかけていました。「びっくりする音」という伝え方はとても魅力的な響きで、それを聞いた児童は嬉しそうに活動し、周りにいた児童も「どんな音がするのかな？」と興味をもっていました。（授業リーダー 仲野舞子先生）



4年「わたしの『強み』って何だろう～自分のよさを生かして未来のわたしを考えよう～」中里拓己先生

図工大好き！授業の最後に登場した中里先生の自画像が驚くほど上手でした。担任の思いが入った自画像は、「先生、すごい！」と感じる、あこがれ、すごさが見られた時間でした。子どものよいところを見つけて仲間と共有する良さは、活動からたくさん見られました。10歳を祝う会はどんなすてきな会になったのでしょうか。（授業リーダー 長野亮太先生）



5年「田んぼの学校」名原道子先生

授業や指導案検討を通して、名原先生はとても柔軟で前向きな方だなと思いました。田んぼでの充実した活動を背景としながらも、「子どもたちがより本気になるには」といろいろな手立てを考えられていました。例えば、子どもが話したくなるような手立てとして、自分の考えたお米の名前を首からぶら下げるなど、検討中に出たもので先生が「いいな」と思ったことはすぐに授業に取り入れていました。日頃から子どもたちと真剣に向き合ってきた先生の気持ちが伝わってきました。何より一番すごいと思ったことは、研究授業が終わった後に、「授業が楽しかった！」とおっしゃっていたことです。かかわらせていただき、私たちもパワーをもらいました。（授業リーダー 三上卓也先生）

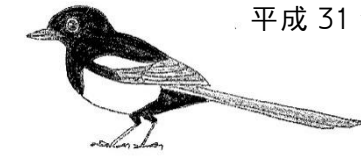
6年「我がまちふるさと」西田智美先生

学年総会で5クラスが同じ材で取り組むので、子どもの意欲を高めることや必要感をもたせるために工夫が必要だなと感じました。しかし、西田先生は「写真展に写真を出さないといけないから写真を撮る」のではなく、「大切にしたいふるさと、まちを大切に思っている方の思いを伝えたい」と感じるような活動にしました。総合的な学習の時間で本物の人と出会い、たくさんの体験をすることは、大切だと改めて感じました。（授業リーダー 大久保友紀子先生）



横浜市生活科・総合的な学習の時間研究会
連携だより

Pica Pica



平成31年2月22日

第3号

平成から次の時代へのかけ橋

副会長 倉本 恵

平成29年11月に全国生活科総合的な学習研究協議会神奈川県大会が横浜を主会場として開催され、県・市・区がつながり、多くの皆様のご協力で成功をおさめました。

この全国大会で終わらない、その次の年こそ大事な1年、という志高い市研メンバーの方々の思いが連携部発足のひとつのきっかけだったと記憶しています。

そして平成30年。私は「平成29年で終わらない！」という思いを胸に、全国大会石川県大会に2日目だけでしたが参加してきました。横浜の生活総合のよさを再確認すると共に、全国で地域の材を活用し様々な学習を展開していることに元気をいただきました。

この機会を生かし、金沢市で私は大学の友人たちに30年ぶりに会ってきました。「学校の先生はこういうところが好きでしょう？」と紹介されたのが「金沢ふるさと偉人館」でした。ここは金沢ゆかりの近代日本を支えた偉人として様々な分野で国際的業績をあげた人々の功績が展示されていました。その中で私の目を引いたのが中西悟堂のコーナー。「連携だより Pica pica」がなければ、このコーナーに足をむけることはなかったと思います。中西氏は「野の鳥は野に、自然環境の中で鳥を愛で保護する」という理念の元、日本野鳥の会を設立した方です。横浜に戻り調べてみると、彼は横浜で晩年を過ごし、そのお墓は鎌倉霊園にあることがわかりました。カササギが金沢と横浜のかけはしとなったように感じました。

いよいよ今年5月から新しい時代の幕開けとなります。カササギが次の時代のかけはしとなり、平成に誕生した生活・総合が、さらに充実することを期待しています。

百聞は一見に如かず、されど ～市・区一斉研を振り返って～

連携部長 矢野 達也

潮の流れがぶつかり合う場所や、外洋と沿岸の境目には、潮目ができます。油を流したように見えるものから、泡立つもの、しぶきをあげるものなど、その姿は様々です。

教室の空気は目に見えません。しかし、まるで色や形があるかのように感じる場合があります。先日の市一斉授業研究会。6年生の教室に私はいました。自分たちが企画したまちづくりイベントを振り返る話し合いが続いています。

「左近山に住んでいる人を『大切にする』って、どういうことなの？」
子どもたちは答えます。一補助する。気づかう。手をさしのべる。教えてあげる…。
水面に絵の具をぽとりと垂らしたように、うっすらと一つの色が教室に広がりかけた時、授業者は一人の子を指名しました。（この子の前時の振り返りを見て決めたそうです。）

「私は、（イベントに参加した地域の方に）大切にされているな、と感じました」
一瞬、風が訪れた後、教室にさざ波が立ち、子どもたちの発言が一変しました。
「いろいろな人が協力してくれた」
「厳しいことも言われたけど、後で考えたら、自分たちのことを思って言ってくれていた」
「そう考えてみると、もっと前から支えられていたのかもしれない」

自分たちの思いや力だけではできなかったことに気付いた時、子どもたちは「大切にする」ことの意味をとらえ直し、地域の人たちの信頼にこたえるためにできることを改めて考えていました。「潮目が変わる」その瞬間に、私は立ち会っていたのです。

百聞は一見に如かず。教室の静かな熱気や、まるで目に見えるかのような空気の変化は、その場にいた人にしかわかりません。でも、どんな材をどう使い、どんな仕掛けをし、子どもがどのように変容したかは伝えることができます。「Pica pica」第3号・第4号では、2校の市一斉研と17校の区一斉研の内容を紹介します。来年度からの実践の参考になれば幸いです。